

議題3 第2次文化推進基本計画の総括及び評価

項番	指標	単位	策定時	平成27年 時点	平成28年 時点	平成29年 時点	平成30年 時点	現状値 (R1実績)	めざす値 (R3年度末)	達成水準 (※)
① 全てのライフステージに文化が行き届く文化政策の推進										
1	この1年間における文化体験・活動の有無	%	59.5	-	-	-	-	89.6	70.0	○
2	芦屋の伝統や文化に関する講演会などの参加者数	人/年	330	1,073	1,573	1,344	2,005	618	390	○
3	社会教育活動を通じて学んだ市民が講師や指導者となった公民館講座及び市民版出前講座の実施回数	回/年	3	19	13	17	15	10	18	△
4	文化財の整理作業補助などに関わる「文化財ボランティア」の活動者数	人/年	15	19	19	19	16	14	29	×
5	「広報あしや」の市民の満足度	%	58.1	-	-	61.8	-	65.2	70.0	△
6	市ホームページの市民の満足度	%	49.5	-	-	47.2	-	46.5	60.0	×
② 未来を切り拓く子どもたちへ向けた文化政策の推進										
7	あしやキッズスクエアでのプログラム実施回数	回/年	-	186	522	780	866	784	920	△
8	中学生以下の美術博物館入館者数	人/年	1,260	761	2,008	1,433	888	1,742	3,348	△
③ 芦屋文化を生かした戦略的なまちづくり										
9	NPOなどの団体と協働して開催した国際理解を深めるための講座の参加者数	人/年	-	-	235	102	49	462	50	○
10	地域におけるまちなみなどの景観の美しさに関して「かなり良い」又は「やや良い」と回答した市民の割合	%	84.7	-	-	84.5	-	91.3	90.0	○
11	市民が1か月に1冊以上読書する割合	%	55.0	-	-	-	-	-	67.8	-
12	公立図書館における児童(7～15歳)の図書貸出冊数	冊/年	73,150	76,369	70,140	75,409	41,608	54,839	77,539	×
13	「定住意向」に対して、「今の場所に住み続けたい」「市内の他の場所で住み続けたい」と回答した割合	%	84.6	-	-	83.9	-	84.3	90.0	×
14	「居住地として芦屋市を選んだ理由」に対して、「地域イメージが良い」と回答した割合	%	42.0	-	-	44.8	-	43.8	46.0	△

※ 達成水準順について ○:達成見込、△:良好傾向(「めざす値」に達していないものの、策定時より増加しているもの)、×:未達見込(策定時より減少しているもの)

<指標の総括>

①「全てのライフステージに文化が行き届く文化政策の推進」の数値は概ね上昇傾向にあり、今期計画の推進により市民が積極的に文化体験・活動に取り組んでいることがうかがえる。達成状況から読み取れる課題としては、文化財関係のボランティアの活動者数は減少傾向にあり、活動者の多くは高齢者のため、若年層の掘り起こしが挙げられる。また、広報活動に対する市民の満足度は目標値を下回っているものの、令和元年7月号から「広報あしや」のデザインを一新し、また、令和2年7月にホームページをリニューアルするなど市民の見易さを重視するよう変更した。今後も、より伝わりやすい情報発信方法を検討する必要がある。

②「未来を切り拓く子どもたちへ向けた文化政策の推進」では、目標値を下回っているが改善傾向にあり、事業内容・開催方法などを検討しながら引き続き重点項目として推進していく必要がある。

③「芦屋文化を生かした戦略的なまちづくり」では、項番12については、「niwa-doku」などの特色のある施策を実施しているものの、貸出冊数が策定時より減少している。これは、図書館大規模改修の影響および新型コロナウイルス感染症の外的要因に伴うものもあるが、本市の強みである読書のまちづくりをさらに推進する方法を検討する必要がある。項番13については、目標値に達していないものの、高い水準で保たれている。

講演会の参加、入館者等新型コロナウイルス感染症等の外的要因により一部目標数値を達成することが見込めない項目もあるが、全体として目標の達成を見込めるものが多く、文化推進基本計画の方向性については今期計画のまま進めていき、現状に合わせて個別事業を軌道修正することで芦屋市の文化推進を図ることとする。